

## 在日外国人の母子保健の現状と対策に関する研究 —人口動態統計と保健所の乳幼児健診からみた在日外国人の母子保健—

吉岡 毅<sup>1)</sup>，齋藤 剛<sup>2)</sup>，中村 敬<sup>3)</sup>  
野田 明子<sup>2)</sup>，中西 好子<sup>4)</sup>，金本由利恵<sup>5)</sup>

### 要約：

我々は人口動態統計の母国籍別解析と保健所の乳幼児健診来所者のうち「来日後に妊娠分娩を経験した外国人の母親」を対象とするアンケート調査を行なった。

- 1) 人口動態統計の母国籍「その他」は日、韓・朝、中、米よりも出生率、死産率、後期死産比が高く、分娩年齢が若かった。アンケート回答者では比国籍者が「その他」と同様の傾向を示した。
- 2) 外国生まれの母親と日本生まれの外国人の母親のアンケート回答状況に著しい差は無かったが、前者にはなお改善すべき点もあった。「夫外国出生、来日から分娩まで3年未満、母日本語理解度可～不可」又は「児を外国で分娩」該当者は各種項目で低値を示した。項目間クロス集計では医療保険加入、公費妊婦健診周知度、妊婦健診受診、乳幼児健診回数、予防接種率の間に相関があった。
- 3) 以上より「夫外国出生、来日から分娩まで3年未満、日本語理解度可～不可」又は「児を外国で分娩」該当者を外国人母子保健対策の重点対象として、妊娠・分娩・育児の各段階で適切な指導や情報提供を行なう必要がある。

見出し語：在日外国人、母子保健、人口動態統計

### I. 研究目的

1991年1年間で東京都の外国人は13.4%増加した。人口に占める外国人の割合も1991年東京都区部で2%、新宿区では実に6%である。これに伴って母子保健対策の対象となる外国人も

急増しており、今や保健所の乳幼児健診に外国人の子女が来所しないほうが珍しいほどである。しかし外国人母子保健に関する公衆衛生的アプローチは不十分で、対象集団の特性把握もできておらず、様々な問題の解決は当事者の個人的努力に依存しているのが現状である。

-----  
1)新宿区衛生部 2)新宿保健所 3)東京都母子保健サービスセンター 4)牛込保健所 5)四谷保健所

そこで我々は人口動態調査の母親国籍欄を利用して出生及び死産統計を解析し、保健所の乳幼児健診に来所した外国人の母親を対象とするアンケート調査を行い、東京都区部の在日外国人の母子保健水準と問題点の把握を試みた。

## II. 研究方法

### A 人口動態統計調査

厚生省から東京都母子保健サービスセンターに提供された人口動態データのうち、人口動態調査出生票及び死産票には母親の国籍が日、韓・朝、中、米、その他の5区分で記入されている。これをもとに1990年東京都区部の出生及び死産統計を母親の国籍別に解析した。出生率算出に用いた人口は日本人は1990年1月1日現在の住民登録人口、外国人は1989年12月31日現在の外国人登録人口である。

### B 外国人母子保健アンケート調査

1990年11月から1991年1月にかけて東京都区部の保健所で実施した3～4カ月児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診の来所者のうち「来日後に妊娠分娩を経験した外国人の母親」を対象に家族の状況、「来日後最初に生まれた子供」の妊娠分娩、乳幼児健診、予防接種、育児、医療の状況と行政・医療機関に対する要望の把握などを目的とするアンケート調査を行なった。

アンケート用紙（別表）は日・英・中・ハンガルの4カ国語で作成した。

## III. 研究結果

### A 人口動態統計調査

出生、死産とも母国籍日、韓・朝、中は略々同様の傾向を呈していたが、母国籍「その他」はこれとは異なり、出生率、死産率、後期死産比が高く、母親も若年であった（表1、表2）。

表1 出生総覧（母国籍別）

	日	韓	中	米	その他
出生数	103,543	1,170	826	195	1,468
出生率*1	12.8	15.4	14.6	15.6	37.7
母年齢	29.7	30.2	29.3	30.1	27.5
低体重*2	6.3	5.5	5.2	1.0	5.9
早期産*3	4.2	4.9	4.9	1.5	4.5

\*1 国籍別人口千対

\*2 出生時体重 2.5kg未満の割合 %

\*3 妊娠満37週未満の出生の割合 %

表2 死産総覧（母国籍別）

	日	韓	中	米	その他
死産数	4,543	82	39	5	111
死産率*1	42.0	65.5	45.1 (25.0)		70.3
後期死産比*2	3.8	2.6	2.4 (10.3)		7.5
母年齢	27.7	28.3	26.1 (27.5)		25.1

\*1 出産千対

\*2 28週以後の死産（出生千対）

「米」は死産数が少ないので死産率、後期死産比、母年齢は参考値である。

在日外国人母子保健アンケート回答者のうち3～4カ月児健診の来所者 222例は1990年に児を分娩している。そこで、この222例を人口動態出生票に準じて母国籍毎に集計し、人口動態嫡出出生データと比較した。

何れも母国籍「その他」の母親は若年で、父親が日本人の割合も高かった（表3、表4）。表4の母国籍「その他」79例の73%が比国人であり、表3の人口動態嫡出出生の母国籍「その他」も比国人の寄与が大きいと類推された。

表3 人口動態嫡出出生（母国籍別）

	日	韓	中	米	その他
出生数	101,971	1,123	797	195	1,407
母年齢	29.2	29.6	29.6	31.6	27.0
父年齢	32.1	34.7	35.9	34.5	34.1
父日本人	99.8%	39.5	64.2	47.4	83.5
父同国人	- %	59.8	33.6	46.9	15.3

表4 アンケート回答者のうち3～4カ月児健診来所者の両親の国籍と年齢（母国籍別）

	日	韓	中	米	その他
総数	0	65	73	5	79
母年齢	-	29.8	29.9	31.6	25.2
父年齢	-	35.2	35.7	35.0	32.8
父日本人	-	32.3%	56.2	40.0	86.1
父同国人	-	66.2%	37.0	60.0	13.9

#### B. 在日外国人母子保健アンケート調査

回収した430の調査票のうち「来日後に妊娠分娩を経験した外国人の母親」という条件に合う394人分を集計した。但し自由記載欄は430人分すべてを分析の対象とした。

特別区53保健所のうち44保健所から有効回答を得た。使用言語は日63.7%、英15.7%、中12.7%、ハングル7.9%で、来所した健診は3～4カ月児健診56.3%、1歳6カ月児健診22.6%、

3歳児健診17.8%であった。

なお育児等について回答すべき児（以下「対象児」）は「来日後最初に生まれた子供」（日本生まれの外国人にあっては第1児）である。

1) 外国生まれの外国籍の母親（症例群）と日本生まれの外国籍の母親（対照群）の回答状況の比較

症例群325例と対照群69例の基本属性（表5）と母子保健並びに医療の状況（表6～10）を比較した。

症例群は、87%が韓・朝、中、比の3国籍であり、日本語が流暢に話せる者は24.1%、夫の65.8%は日本生まれで、対象児は平均1.6歳、母来日から対象児分娩までは2.6年、対象児分娩時に母親は27.6歳であった。

対照群はほとんどが在日韓国・朝鮮人で夫の92.8%は日本生まれで、対象児は平均4.5歳、対象児分娩時に母親は27.0歳であった。

母子保健及び医療の状況で症例群と対照群の回答状況に顕著な差は無かったが、症例群は対照群よりも公費妊婦健診周知度（表6）や休日夜間診療案内周知度（表10）が低く、子供の病気や心配事がある者が多かった（表10）。また対照群と有意差はないものの、症例群には3歳以上の児の健診受診回数が少ない（東京都区部の標準受診回数は6回）こと（表7）、BCG以外の予防接種率が低いこと（表8）などなお改善すべき点もあった。

表5 基本属性

	症例群	対照群
母国籍 韓・朝	21.5% *	91.3%
中	37.2% *	4.3%
比	28.3% *	0.0%
母記入時年齢	29.0歳	31.3歳
母日本語理解：良	27.1% *	100.0%
母就業割合	15.4% *	31.9%
夫日本生まれ	65.8% *	92.8%
対象児年齢	1.6歳*	4.5歳
母来日～対象児分娩	2.6年	-
対象児分娩時母年齢	27.6歳	27.0歳

\*対照群と有意差あり (P&lt;0.05) (表6～10同)

表6 母子手帳、妊娠・分娩

	症例群	対照群
母子手帳保有率	98.2%	100.0%
母子手帳について医療機関で知った者 1)	64.9% *	76.8%
妊婦健診受診率	93.5%	97.1%
妊婦健診受診回数	9.2回	10.5回
公費妊婦健診周知度 2)	66.8% *	92.5%
児を外国で分娩した者	9.5%	1.4%
1) 母子手帳保有者	2) 妊婦健診受診者	

表7 乳幼児健診

	症例群	対照群
乳幼児健診通知受取	79.4%	88.4%
乳幼児健診受診率	98.8%	100.0%
0歳児	2.0回	1.9回
健診回数 1～2歳児	3.7回	2.8回
3歳以上	3.6回	3.5回

表8 予防接種

	症例群	対照群
予防接種通知受取	88.6% *	97.1%
BCG接種率 (0歳以上)	91.7%	92.8%
ポリオ接種率 (1歳以上)	76.0%	78.0%
DPT接種率 (3歳以上)	58.0%	54.5%
麻疹接種率 (3歳以上)	44.9%	52.3%

表9 育児

	症例群	対照群
母乳哺育 (含混合栄養)	84.9%	89.9%
子供の遊び相手がいる 1)	78.1%	79.7%

1) 1歳以上

表10 医療

	症例群	対照群
医療保険加入率	92.0%	97.1%
医療費支払が出来る者	90.8%	97.1%
休日夜間診療案内周知度	50.8% *	91.3%
子供の病気や心配事あり	14.8% *	2.9%

2) 母子保健上のハイリスクグループの抽出と問題点の内容

症例群を母来日から対象児分娩迄の期間、母日本語理解度、父出生地、対象児出生地などを指標に層別集計を行なった。

その結果、症例群をR1群「夫外国出生、母来日から対象児分娩まで3年未満、母日本語理解度可～不可」、R2群「児を外国で分娩」、C群「R1群、R2群の何れにも該当せず」に分けると、R1群、R2群に母子保健及び医療

上の問題が多かった。

R1群(47例)、R2群(32例)とC群(24例)に有意差のある項目を表11と表12に示す。

R1群は医療について(表11)、R2群は妊婦健診、乳幼児健診について(表12)、C群に劣る項目が多かった。

表11 R1群とC群の比較

	R1群	C群
母子手帳について医療機関で知った者 1)	51.1% *	67.6%
予防接種通知受取	80.9% *	90.7%
医療保険加入率	80.9% *	93.5%
医療費支払が出来る者	76.6% *	92.7%
休日夜間診療案内周知度	38.3% *	54.5%

1) 母子手帳保有者のみ

\* C群と有意差あり(P<0.05)(表12も同じ)

表12 R2群とC群の比較

	R2群	C群
妊婦健診受診率	84.4% *	95.1%
妊婦健診受診回数	6.6回*	9.6回
乳幼児健診通知受取	65.6% *	82.1%
規定回数以上健診受診1)	24.1% *	57.9%
母乳哺育(含混合栄養)	62.5% *	87.4%

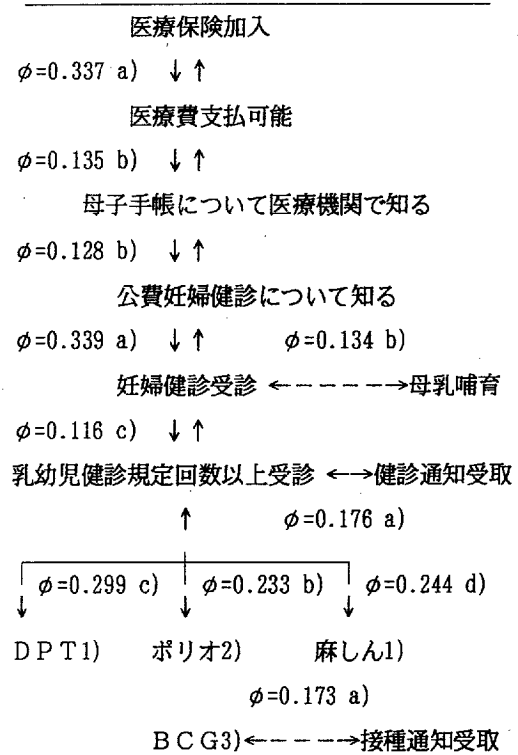
1) 乳幼児健診を0歳児2回、1~2歳児4回、3歳以上5回以上受けた者の割合

### 3) 母子保健行動相互の関連性

症例群 325例について項目間クロス集計を行ったところ医療機関へのアクセスから妊婦健診、乳幼児健診、予防接種に至る一連の母子保健行

動に段階的相関が認められた(図1)。

図1 母子保健行動相関図



$\phi = \{ \chi^2 / n \}^{1/2}$  ( $\chi^2$ : 連続性の補正をしない $\chi^2$ ) ( $\phi$ は相関係数に相当する)

a) P<0.01 b) P<0.05 c) P<0.10 d) P<0.20

1) 3歳以上 2) 1歳以上 3) 0歳以上

### 4) 自由記載欄の分析

自由記載欄には75人がプライバシーに関するものか行政機関に対する要望を記入していた。

プライバシーに関するものは7件で、内容は病院で医師の話しが周囲に聞えること、姑と育児に対する考え方が違うことなどであった。

行政機関に対する要望68件のうち特に外国人に関係が深いのは47件で、このうち情報提供を求めるものが最も多く30件を占めた。

情報関係の訴えの内容は、外国語の医療機関リスト、母子手帳、健康読本などの通知、案内、説明の強化を求めるものが8件、外国語のできる職員の配置を求めるものが6件、その他全般的にコミュニケーション強化を求めるものが6件であった。

情報以外の訴えは病院の待ち時間が長いこと、保育所への入所希望など17件あった。

#### IV. 考察

外国人母子保健対策の課題は、①外国人全体の母子保健水準を把握し基盤的外人母子保健対策の立案、②ハイリスクグループに対する特別対策の提案、③今後の外国人母子保健対象者の動向を予測することの三つである。

##### 1) 外国人全体の母子保健水準と基盤的外人母子保健対策

1990年の東京都区部の乳児死亡率は出生千対4.4、施設内分娩割合99.3%と天井を打っており、もはや人口動態指標からは母子保健の水準は評価し難い。

我々は外国人母子保健アンケート回答者の母子保健及び医療水準を妊娠・分娩・育児の各段階で

- 必要な情報が提供されているか、
- 保健医療サービスが適切に利用されているか

という観点から評価した。

##### a 情報提供に関する問題点

情報に関する問題点は、母子手帳について医療機関で知った者の割合、公費妊婦健診周知度、並びに休日夜間診療案内周知度が低いことと、乳幼児健診通知や予防接種通知を受け取った者の割合が低いことであった。このうち情報入手に本人の主体的努力が必要な前3者の周知度が後2者よりも特に低いことが特徴的であった。

また自由記載欄にも母子保健及び医療情報の不足を訴えるものが多かった。

##### b 保健医療サービス利用に関する問題点

この点に大きな問題があったが、3歳以上の児の乳幼児健診受診回数、BCG以外の予防接種率など東京都区部の標準に達せず、なお改善を要す項目もあった。

##### c 基盤的外人母子保健対策

1) - a から基盤的外人母子保健対策として母子保健及び医療情報提供体制の拡充を図る必要がある。この課題は主に行政機関が外国語の広報を充実させることで解決できる。保健医療サービス利用が不十分な項目についても情報提供を強化することで改善が期待できる。

##### 2) ハイリスクグループに対する特別対策

##### a ハイリスクグループの特定

「夫外国出生、母来日から分娩まで3年未満、母日本語理解度可～不可(R1)」又は「児を外国で分娩(R2)」該当者に母子保健及び医療上の問題が多く、R1群は医療について(表11)、R2群は妊婦健診、乳幼児健診について(表12)劣った項目が多かった。

### b ハイリスクグループに対する特別対策

ハイリスクグループには基盤的対策に加えて個別的な情報提供と保健医療サービスの適正利用の指導が必要である。妊娠・分娩・育児が関連する事象であることから(図1)、情報提供と指導は母子保健の各段階で行なう必要がある。

なお、指導助言にあたっては対象者の出身地の母子保健サービスの体系を把握していなければならぬが、現在こうしたデータは甚だ不足している。外国人母子保健対策の一貫として係るデータを収集する必要がある。

以下グループ別に対策を述べる。

R1群は来日後間もなく、日本語理解も不十分な夫婦である。現在この群への対応は現場の担当者の個人的努力に負っており、速やかに組織的に対応する体制を整備する必要がある。

R2群は母親の出身国への里帰り分娩である。里帰り時と再来日時に母子保健サービスが中断しないよう医療機関や保健所が配慮すれば問題の多くが解決できる。

### 3) 外国人母子保健対象者の動向

外国人母子保健対象者数の決定要因は現在の人口と増加率(社会増)(表13、14)、出生率(自然増)(表1)の3者である。

これに基づいて国籍別に検討すると韓・朝、中、比が外国人母子保健の3大対象である。

韓・朝は日本生まれも多いが、アンケート回答者の国籍と出生地分布(表5)から類推すると約半数は韓国出生と考えられる。

中は人口・増加率とも大きい(表13)。

比は人口は少ないが(表14)、アンケートか

ら類推して出生統計の母国籍「その他」の70%を占めると考えられる(表4)。出生率も高く(表1)、出生数は韓・朝、中を凌いでいる可能性もある。

米は人口は比と略々同じだが、出生数が少ないので母子保健上の比重は小さい(表1)。

伯、タイは絶対数は少ないものの増加率は大きく、注目すべき集団である(表14)。

表13 東京都の外国人登録者(国籍別)

	韓	中	米	その他
'91年末人口(千人)	98	68	18	67
増加率1) %	4.6	10.5	11.9	33.5

1) 1991年1年間の増加率(表14も同じ)

表14 東京都の外国人登録者(「その他」内訳)

	その他	比	伯	タイ
'91年末人口(千人)	67	16	1	0.4
増加率 %	33.5	23.4	93.7	32.2

外国人の増加に伴い、母子保健上のハイリスクグループである「夫婦とも外国生まれで、来日後間もなく、日本語理解が不十分な者」の絶対数も着実に増加しよう。今や外国人母子保健対策の体系化は喫緊の課題である。

### V. 参考文献

- 1) 勝野真人、林謙治：わが国における外国人の出産—その推移と将来予測—。周産期医学, 20(12), 1729, 1990.
- 2) 平山宗宏：平成2年度幼児健康調査について。小児保健研究, 50(6), 691, 1991.

## 在日外国人母子保健アンケート

「母子保健アンケート」についてのお願い

現在、日本には多くの外国籍の方が住んでおられますが、日本にお住みになって、習慣や言葉の違いにより、色々ご苦労がおりのこととお思います。

特に妊娠、出産、育児の点では、たいへんな苦労がおりのこととお思います。我々は、日本で子供さんを育てている外国籍の方々の育児の現状がどうかの把握するため、次のようなアンケート調査を企画しました。

アンケートの調査の結果は後日、在日外国人の方々の母子保健対策に反映させていきたいと思っています。

お忙しいところ恐縮ですが、よろしく、ご協力のほどお願いします。

1990年6月

新宿区衛生部 保健所

家族のことについてお聞きします。

A1 以下の空らんを埋め、あてはまるものに○をつけてください。

年齢	国籍	出生地	日本語の理解
母(妻)( 歳 月)( ) ( ) (良/可/不可)			
父(夫)( 歳 月)( ) ( ) (良/可/不可)			
子供	性別	年齢	国籍
出生地			
第1子( ) ( 歳 月)( ) ( ) ( )			
第2子( ) ( 歳 月)( ) ( ) ( )			
第3子( ) ( 歳 月)( ) ( ) ( )			
第4子( ) ( 歳 月)( ) ( ) ( )			

良……普通の会話、文書に不自由しない。

可……1人で何とか意志の疎通ができる。

不可……1人では会話ができない。

A2 A1で言葉の理解が「不可」と答えた方にお聞きします。

誰が手助けをしてくれますか。

- 1 夫および家族
- 2 日本人の友人
- 3 同国人の友人
- 4 その他

A3 あなたは日本で生まれましたか。

- 1 はい
- 2 いいえ

A4 A3で、「はい」と答えた方にお聞きします。

日本に来て( )年になります。

A5 健康保険に加入していますか。

- 1 加入している。
- 2 加入していない。

A6 A5で加入していると答えた方にお聞きします。

どのような種類の保険に加入していますか。

- 1 国民健康保険
- 2 生命保険会社の疾病保険
- 3 その他

A7 日本で生活をしていく上で、妊娠、出産、育児をとらしてプライバシーが守られなかったことがありますか。

- 1 ある
- 2 なし

A8 A7で「1」と答えた方にお聞きします。  
具体的に記載してください。

B 以下は日本で生まれた最初の子供の育児についてお聞きします。  
以下の空らんを埋め、あてはまるものに○をつけてください。

B1 母乳をあげましたか。

- 1 はい( )ヶ月まで
- 2 いいえ

B2 母親は職業を持っていますか。

- 1 はい 1日( )時間
- 2 いいえ

B3 B2で「はい」と答えた方にお聞きします。  
出産後の位で仕事を再開しましたか。

- 1 1ヶ月以内
- 2 3ヶ月以内
- 3 1年以内
- 4 仕事をやめた
- 5 その他

B4 B3で「1～3」と答えた方にお聞きします。  
母が就労中の育児の担い手は誰ですか。

- 1 家族
- 2 友人
- 3 保育園等の集団保育

B5 日本の「母子手帳」を持っていますか。

- 1 はい
- 2 いいえ

B6 B5で「はい」と答えた方にお聞きします。

母子手帳の交付について、どこで知りましたか。

- 1 妊婦健診に行った病院や診療所で知った。
- 2 保健所の母親教室
- 3 保健所の乳児健診
- 4 友人、知人

B7 妊娠中妊婦健診を受けましたか。

- 1 はい 場所( )回数( )
- 2 いいえ

B8 B7で「はい」と答えた方にお聞きします。

妊婦健診の公費負担制度(妊娠中無料で2回検診が受けられる制度)を知っていますか。

- 1 はい
- 2 いいえ



B 9 おなしく B-7 の質問で「いいえ」と答えた方にお聞きします。

おてはまるもの全てに( )をつけてください。

妊婦健診を受けなかった理由を教えてください。

- 1 妊婦健診とは何のことだか知らなかった。
- 2 いつ、どこに、行けばいいのか、知らなかった。
- 3 必要ないと思った。
- 4 忙しかった。
- 5 お金がなかった。
- 6 行っても言葉が通じないのではないかと思った。
- 7 何をするのかよく解らなくて不安だった。
- 8 その他 ( )

B 10 どこで子供を生まれましたか。

- 1 病院
- 2 診療所
- 3 助産婦
- 4 自宅で助産婦の介助で
- 5 自宅で1人で
- 6 爛肉した
- 7 その他

B 11 乳幼児健診の勧奨通知を受けましたか。

- 1 はい
- 2 いいえ

B 12 乳幼児健診を受けましたか。

- 1 はい 場所 ( ) 回数 ( )  
時期 ( 歳 月 ) ( 歳 月 )
- 2 いいえ

B 13 B 12 の質問で「いいえ」と答えた方にお聞きします。

- 1 乳幼児健診の事を知らなかった。
- 2 いつ、どこに行けばいいのか知らなかった。
- 3 必要ないと思った。
- 4 忙しかった。
- 5 お金がなかった。
- 6 言葉が通じないため不安であった。

B 14 予防接種の通知を受けましたか。

- 1 はい
- 2 いいえ

B 15 次の予防接種は受けましたか。

- |       |      |       |
|-------|------|-------|
| B C G | 1 はい | 2 いいえ |
| D P T | 1 はい | 2 いいえ |
| Polio | 1 はい | 2 いいえ |
| MMR   | 1 はい | 2 いいえ |
| M     | 1 はい | 2 いいえ |

B 16 B 15 の質問で「いいえ」と答えた方にお聞きします。

- 1 予防接種の事を知らなかった。
- 2 いつ、どこへ行けばいいのかわからなかった。
- 3 本国ですんでいるので必要ないと思った。
- 4 忙しかった。
- 5 お金がなかった。
- 6 言葉が通じないので不安であった。

B 17 育児の上での相談相手は誰ですか。

- 1 夫および家族
- 2 友人
- 3 主治医
- 4 保健所

B 18 子供の遊び相手が近所にいますか。

- 1 はい
- 2 いいえ

B 19 軽い風邪や下痢の時はどうしますか。

- 1 家族でケアをする (薬は与えない)
- 2 家族でケアをする (市販薬を与える)
- 3 主治医にかかる
- 4 その他 ( )

B 20 119番(救急の電話)を利用したことはありますか。

- 1 ある
- 2 ない

B 21 休日夜間診療案内を知っていますか。

- 1 知っている
- 2 知らない

B 22 何か病気や心配事がありますか。

- 1 ある 具体的に ( )
- 2 ない

B 23 病気の時医療費の支払についてお聞きします。

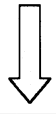
- 1 支払ができる。
- 2 支払が困難で受診をためらう。

C 1 行政機関に対する要望があれば書いてください。

- 1 区役所
- 2 保健所
- 3 福祉事務所

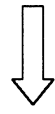
D 1 医療機関に関する要望を自由に書いてください。

ご協力をありがとうございました。



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



### 要約:

我々は人口動態統計の母国籍別解析と保健所の乳幼児健診来所者のうち「来日後に妊娠分娩を経験した外国人の母親」を対象とするアンケート調査を行なった。

1)人口動態統計の母国籍「その他」は日、韓・朝、中、米よりも出生率、死産率、後期死産比が高く、分娩年齢が若かった。アンケート回答者では比国籍者が「その他」と同様の傾向を示した。

2)外国生まれの母親と日本生まれの外国人の母親のアンケート回答状況に著しい差は無かったが、前者にはなお改善すべき点もあった。「夫外国出生、来日から分娩まで3年未満、母日本語理解度可～不可」又は「児を外国で分娩」該当者は各種項目で低値を示した。項目間クロス集計では医療保険加入、公費妊婦健診周知度、妊婦健診受診、乳幼児健診回数、予防接種率の間に相関があった。

3)以上より「夫外国出生、来日から分娩まで3年未満、日本語理解度可～不可」又は「児を外国で分娩」該当者を外国人母子保健対策の重点対象として、妊娠・分娩・育児の各段階で適切な指導や情報提供を行なう必要がある。